

7 2024年度 支援対象者による活動報告



川崎 莉音 (かわさき りおん)
特定非営利活動法人
#YourChoiceProject
[Co founder]
<https://yourchoiceproject.com/>

▶ プロフィール

2001年兵庫県生まれ。

2021年11月、任意団体#YourChoiceProject設立、2024年にNPO法人化。2024年、Forbes JAPAN「世界を救う希望」100人に選出。2024年8月、光文社新書より書籍「なぜ地方女子は東大を目指さないのか」を出版。2025年4月より経済産業省勤務

▶ 活動支援金の活用状況について

地方の女子学生に対して、2年間のマンツーマンメンタリングを行うコミュニティの運営費用に使用させていただきました。

2期生45名、3期生57名に対してメンタリングとキャリア講座を提供しています。

また、調査事業として、東北大学の研究チームと事業提携を開始しました。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

法人としては2期目に突入し、体制も変更する中で着実に活動を広げられていると感じています。私自身は就職という道を選び、団体の代表は後輩に引き継ぎました。事業に割ける時間は減りましたが、団体としては50名を超えるメンバー数となり、順調に活動を続けられています。



坂本 悠愛 (さかもと ゆあ)
MORE FREE [代表]
慶應義塾大学
<https://morefree.jp/>

▶ プロフィール

地方女子における上京のハードルを下げるため、都内にシェアハウスを2棟運営しています。空き家をリノベーションしており、家賃は3-4万円です。ポジティブなアクションを起こすことを目指しています。

▶ 活動支援金の活用状況について

2025年夏に1.5ヶ月の北欧勉強旅に行かせていただきました。渡航費とプログラム参加代を基金から賄いました。特にデンマークではホイスコーレという教育施設に3週間滞在し、日本の教育文化との違いを体感しました。その他も大学進学、ジェンダー、民主主義について多様な観点から視察・考察し、自分の活動家としての次の目標もはっきりしました。現地の学生や活動家とたくさん話せたこともまた活動を頑張る活力になっています。

また、MORE FREEを一般社団法人化いたしました。その他、全国の高校300校にポスターを郵送する際の郵送料として使用いたしました。

今年の私は、この基金をいただいでいなければ全く違う行動をしていたと思います。本当に貴重な機会をありがとうございます。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

今年はシェアハウスの2棟目をオープンし、団体を一般社団法人化しました。メディアに取り上げていただく機会も多く、地方女子の進路格差の問題への認識は広まりつつあるように感じています。2025年は私にとって学生最後の年であり、MORE FREEを成長させ切ること、活動家個人としてどう進むべきかを深く考えさせられる年でした。北欧に勉強旅に行かせていただいたことで、現地と日本の違いや格差を身をもって感じました。改めてMORE FREEの活動が必要だと認識でき、シェアハウスを持続可能なものにしたいと強く思いました。また、私自身もMORE FREEだけでなく枠組みを超えてアクティビストとして活発でありたいと思うようになりました。来年からはソフトバンクグループのCSRに入社・配属が決まっており、会社員と社団の代表理事を兼任することになります。バランスを取りながら、まずは私自身が豊かであることを忘れずに、全方面に全力で挑んでいきたい。



佐藤 真子 (さとう まこ)
Compass [代表]
<https://compassmorioka.wixsite.com/compass>

▶ プロフィール

岩手県普代村出身。2021年ジェンダー平等を求める盛岡市民の集まりCompassを立ち上げる。2025年は楽しくジェンダーについて考えられる「いわてジェンダーかるた」を作成。活動を通じて、意思決定の場に女性が必要であることを実感し、現在は女性議員を目指して勉強中。

▶ 活動支援金の活用状況について

現時点では、東北福祉大学通信教育部社会福祉学科の学費、コミュニティ・オーガナイズングワークショップ参加費用など自身の学習に使用しています。また、東京都議選にも支援金を活用し、見学に行きました。今後、同じく岩手県内で女性議員を目指す仲間たちと一緒に勉強会を実施したり、女性模擬議会などのイベントを企画していますので、その費用としたいと考えております。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

盛岡市で女性議員を目指す仲間たちと月1回以上勉強会を開催しています。地元の市議会議員や知事を招いて話を聞くなど有意義な場となっています。この勉強会に参加している女性たちがみんな議員となって、声を上げたら岩手県はもっと暮らしやすい地域に変わるはずだと期待しています。女性初の総理大臣が誕生しましたが、ジェンダー平等な社会には近づいていません。もっと意思決定の場に私たちの声を聴く女性が必要です。政治は生活のチェックだと思います。今はその場に高齢の男性ばかりいます。これでは、多様な目で生活をチェックすることはできません。政治の主役は私たち市民です。だからこそ、多様な市民の声を拾える多様なリーダーが必要です。そしてリーダーは分断を解消する人でなければならないと思っています。今、分断を煽るような強い言動が社会を席卷しています。この動きに負けず遠い理想の道ですが、岩手県からどんどん声を上げていきます。



徳田 玲亜 (とくだ れいあ)
特定非営利活動法人風テラス [理事長]
コモンズ法律事務所 [弁護士]
<https://futeraz.org>

▶ プロフィール

弁護士。2015年、性風俗店を訪問し、風俗に従事する女性に生活法律相談を提供する活動に参画。2022年にはこの活動を風テラスとして法人化。副理事長を経て、2024年12月にNPO法人風テラスの理事長に就任。これまで相談を受けた当事者の数は1000名を超える。

▶ 活動支援金の活用状況について

私たちは性風俗従事者向けの相談事業を活動の中核事業に置いていますが、私たちの団体が相談にのるだけでは、目の前の人は救われるかもしれませんが、社会は変わりません。私たちが目指す社会とは、どんな立場の人であっても支援を必要とする時、必要な支援が受けられる社会です。そのためには支援機関の相談員のスキルアップが欠かせません。そこで、私たちが10年以上活動に取り組む中で蓄積してきた知識や相談ノウハウを専門職向け研修教材という形に落とし込む作業を1年かけて行いました。現在、60ページ前後の教材ができており、同教材を用いて内部の新人相談員向けに4回に渡る研修を実施し、内容のブラッシュアップを図っているところです。活動支援金は、そうした研究教材作成のための人件費として使わせていただいています。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

私たちのところに相談に来られる方の多くは、風俗で働いている・働いていたことを誰にも打ち明けられず、困難を多重化させています。そして、風俗に従事した背景に目を向ければそこには様々な事情があります。その事情を分析するならジェンダーギャップの問題とは切っても切り離せません。しかし、世間からは「楽しく稼いでいる」「脱税している」といった偏見の眼差しが向けられ、それが偏見に留まらず、トラブルに巻き込まれても自業自得と言われたり、「都合が良い時だけ支援を利用するな」と言われたりといった差別につながっていると感じています。私たちは、相談者の実像を伝えるとともに、人が無意識のうちに築いている偏見に気づき、フラットな視点で相談者と向き合えるような研修・講演を専門職向け、一般市民向けにそれぞれ展開しています。今後もより多くの人に向けて研修・講演を展開していく予定です。



中谷 衣里 (なかや えり)
NPO法人北海道レインボー・
リソースセンターL-Port [代表理事]
<https://l-port.net/>

▶ プロフィール

14歳でレズビアンと自認し、カミングアウトにまつわる家族との葛藤や学校職場でセクシュアリティを隠す苦しさを経験。この生き難さは、レズビアンやLGBTQ+を不可視化する社会構造が原因だと気づき、20代後半からNPO法人北海道レインボー・リソースセンターL-Portにて当事者支援並びに啓発活動を開始。

▶ 活動支援金の活用状況について

2025年4月以降で以下の事業運営費として使用させていただきました。

【セクシュアリティ専門SNS(LINE)相談にじいるtalk-talk】

法人事務所兼LINE相談用貸室、LINE相談用アカウント...約40万円

→期間中は月2回各3時間開設し、LGBTQ+やそうかもしれない考える方から述べ226件のご相談を受け付けることができました。

【LGBTQ+やそうかもしれない人の居場所にじいる談話室】

居場所交流会貸室、スタッフ旅費交通費、交流会用飲み物、消耗品...約10万円

→北海道札幌市と旭川市で合計22回開設、述べ107名が参加することができました。

その他、事業用PCの買い替えに約30万円を使用させていただきました。同法人の専従職員になる前から長年使用していた私用PCだったため、バッテリーの経年劣化が激しく作業効率が落ちていましたが、今は事務作業をしやすい環境が整い助かりました。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

貴基金を活用し、LGBTQ+当事者支援の基盤ともいえる”相談”と”居場所”の2事業を今年度も継続的に運営できたほか、組織基盤強化も視野に入れた電子機器の買い替えもできました。この基金をとおしてご支援くださった皆様に改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。さて、私たちが運営しているLINE相談にも居場所交流会にも、多様な性を生きる”女性”が多く来られています。お話を深く聞いていると、セクシュアルマイノリティであることはもちろん、ジェンダーにおいても脆弱な立場に置かれることが多く、悩みは精神的孤立から経済的貧困状態まで複合的であり、且つ不均衡の皺寄せを受けているのは明らかです。これからも、女性を含むあらゆるジェンダー・セクシュアリティを生きる方がどこに住んでいても自分で自分の人生を切り開いていけるよう、支援と啓発の輪を北海道から拡げて参ります。



森松 明希子 (もりまつ あきこ)
東日本大震災避難者の会
Thanks & Dream(サンドリ) [代表]
<http://sandori2014.blog.fc2.com/>

▶ プロフィール

東日本大震災及び福島原子力惨禍に被災。0歳と3歳の2児を連れて福島から大阪へ国内避難(母子避難)。国内外で、災害時における被災者・避難者の人権について訴える。スイスジュネーブの国連人権理事会にてスピーチ。「黒田裕子賞」受賞。著書に『母子避難、心の軌跡』、『災害からの命の守り方ー私が避難できたわけー』

▶ 活動支援金の活用状況について

災害当事者の気づきを通して災害時の人権擁護の課題と解決策を広く社会に伝えます。3.11避難当事者の視座から事実を記録し、社会全体で問題を共有し、今後の防災・減災および災害時における人権擁護につなげます。

特に、有事(災害時)により一層の脆弱性が指摘される女性・子どもの意見が全く反映されず、権利侵害の常態化が続いている現状を打破し、災害時におけるすべての人の基本的人権が守られるよう当該基金を活用します。具体的には、災害被災者の人権擁護のための証言活動・啓蒙活動のための冊子やリーフレット等の制作のほか、災害被災者の「声」を届ける活動(講演会・お話し会・ドキュメンタリー映画の上映と感想シェア会・意見交換会等)の開催等を行っています。また、全国各地での人権シンポジウム、災害被災者支援ネットワーク、研究会等へ積極的に参加し、提言や情報交流を図り、社会全体で問題意識を共有できるように働きかけます。

▶ 現在の活動の状況と、今後の展望

2011年3月11日に発災した東日本大震災及び福島原子力惨禍から次の3.11で15年が経過しますが、今も避難生活を続けている人々が多数存在しており復興の途上にあります。しかし現状は、その後も大規模災害が次々と起こり続けています。災害に伴う被災や避難の経験は、災害大国日本において決して特別なことではありません。いつ、誰の身にふりかかってもおかしくない身近な問題について、現状の課題解決、特に有事(災害時)にこそ脆弱性が露呈する女性・子どもを含むいわゆる災害弱者と呼ばれる人々の基本的人権が守られ、災害時における全ての人の尊厳が守られる社会の実現を目指しています。災害時における個人の尊厳を守ることは、被災当事者だけでなく、すべての人に関わる普遍的な人権課題として捉え直すべき問題であり、それを明確なビジョンとして掲げ、全ての災害被災者の基本的人権が平等に守られるために力を尽くしたいです。

<活動報告サイト> <http://sandori2014.blog.fc2.com/blog-category-34.html>